



「むかしを語り継ぐ」

たぐち りいちろう

田口 利一郎 さん

宇治

築100年以上の味わいのあるお宅に昔から住んでいる田口さん。高梁市内の小中学校で教員をされていました。子どもの頃は家の仕事を手伝うことが多く、友だちとの遊びといえば、お祭のときに集まってめんこやコマ回しをするくらいでした。乗り物がなかった当時、稲を背負って運んだり、学校までは1時間近くかけて歩いて通ったりしていました。師範学校の一年生を終えたときに、兵役で広島に行くことになりました。厳しい訓練中に終戦を迎え、再び師範学校に戻りました。しかし、教育内容はそれまでに習ってきたこととは大きく変わっていて、とまどったそうです。

目まぐるしい時代の変化の中で教育に携わってきた田口さんに、これからの時代子どもたちに何を伝えていったらいいですか?と尋ねると、心だと答えくれました。「子どもと同じ立場に立って、大人が理解してあげることが大切である。」と。絶対に教師の立場が上であったと思われる時代の中、子どもに寄り添うという行動をされた田口さんは強い意志を持って教育をされていたんだと感じました。



ソミヤは田口さんの子供の頃の厳しい農作業や過酷な戦争体験などを聞き、今の暮らしの知恵は、物の価値や思想が激しく変化した時代の流れをへて生まれたものだと知りました。

里山の人々の姿はたくましく遠い存在に感じていたソミヤですが「生活の技は、コツコツと自然とともに暮らす中で身についていくものなんだ」と少し勇気がわいてきました。